

2月

令和5年2月1日

# ちびっこの森通信 vol.69

☆☆今月のテーマ☆☆



- ・寒さに負けず、健康に過ごせるようにする。
- ・季節の行事に興味や関心を持ち、楽しんで参加する。



～今月の園内学習～



- ・足し算…3の段
- ・掛け算…3の段
- ・絵画カード…ゴッホの部屋
- ・歴史カード…「坂本龍馬」ほか
- ・国旗カード…オセアニア
- ・地理カード…関東地方
- ・声に出して読みたい日本語…「十二月」「山椒魚」



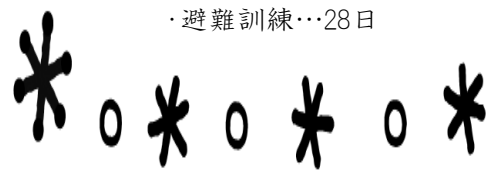
～保育のポイント～

しつけには①(心身の)健康、②知育および③社会(または道徳)性の3要素で構成されています。そのことに関連し、まず日本が「恥の文化」として紹介されている「菊と刀」(ルース・ベネディクト著)を見ていただきたいです。その中で、日本と米国では(厳格)生活曲線が逆だ、の1節があります。これは、日本は赤ちゃんの時にわがままを許し、甘やかして育てて成長に従い厳しくするのに対し米国では正反対で0歳の時が最も厳しく、3歳で少し緩め、6歳ではもう少し緩め、9歳にさらに緩め、以後は親子で話し合いて指導していく傾向だ、とのこと。日本では幼少期に子どもの望むままに育てようとする風潮となり、それは子どもを甘やかし、我慢を教えないことにつながり、子どもの欲求は次第に膨れ上がり、とめどなく大きくなってしまいかねないことに繋がりがねない、との事。ですから、幼少期より続かわがままは、我慢をさせられることから生じるというよりも、我慢を教えられなかったこと、言い換えれば、子どもの欲求を満たさないからではなく、欲求を満たしすぎるから生じていると認識すべきだと指摘されています。このいい例が、仏国の中流家庭は幼少期に厳しく育てることから子どもたちは自分の欲求を抑えることを理解し、欲求不満を抱え込まないので問題行動を起こすことは稀だと紹介されています。幼少期のお子さんとの向き合い方の一つのヒントとなれば幸いです。(赤ちゃん・幼児の知力と才能を伸ばす本、七田真著より抜粋)



～行事予定～

- ・英語教室…1日(乳児)
- 15日(幼児)
- ・書道教室…2日、9日、16日、22日
- ・節分会…3日
- ・体操教室…8日(0・1歳児/3歳児)
- 10日(2歳児/4・5歳児)
- ・生活発表会…18日
- ・リミック教室…20日(幼児)
- 27日(乳児)
- ・身体測定…21日(乳児)
- 22日(幼児)
- ・誕生日会…24日
- ・避難訓練…28日



0～1歳児だより



真冬の冷たい風にも負けず、子どもたちは元気いっぱいです。先月のお正月遊びでは、羽扇の代わりに風船で羽子板遊びをしたり、臼に入れた小麦粉粘土をお餅に見立て、杵でペッタン、ペッタンと餅つきごっこをしたりと日本古来の伝承遊びに浸るひとときを楽しく過ごすことができました。最近では、お友だち同士の関わり合いの中でお互い名前を呼び合ったり、一緒に遊ぶ中で「どーじょ(どうぞ)」や「あーとう(ありがとう)」などの言葉が飛び交うコミュニケーションが成立しつつあるのが顕著な成長として見て取れます。昔から「兄弟が多いと言葉は早い」とも言われてきましたが、異年齢生活の中でいい刺激をもらいながら成長しているんだなあ～と実感しています。これからも季節の変わり目も体調管理をし、元気に過ごしていけるように見守ってきたいと思います。



2～3歳児だより



今冬の寒さはなかなか手強いですが、冬ならではの体験ができるのは捨てがたく楽しめているのはいいことですね。お正月遊びでは、代表的な凧揚げやお餅つきごっこを楽しむことができました。2歳児たちは製作時にはお互いに「こしたらいんじゃない？」などと一緒に考えたり、その案を取り入れて作ったりと関わり合いが増えているのが大きな変化であり、成長と言えます。また、トイレトレーニングでは象徴的な「お兄ちゃんパンツ又はお姉ちゃんパンツ」を汚さないためなのか、自ら排泄に向かう姿が定着しているのも頼もしく感じています。一方、3歳児たちは、発表会に向けた劇遊びをはじめ、遊戯や合奏を遊びに取り入れる形で楽しく取り組んでいます。劇では月齢が上がる毎にセリフが増え、上手にこなしていく姿は流石だなと感じるところとなっています。はてさて本番では普段の様子を披露できるか否かは定かではありませんが、みんなは一所懸命に練習をしていますのできっと「かっこいい」ところがお披露目できると思いますのでお楽しみになさって下さい。



4～5歳児だより



穏やかな年明けの保育始めには久々の再会を喜び、お家での楽しかったこと等で盛り上がっていました。古来より伝わるお正月遊びの一環で「絵馬」づくりに挑戦しました。みんなは好きな絵を描き、願掛けで自分の願いごとを書き、楽しむことができていました。どうぞみんなの思いが届きますようにまた、今月の生活発表会に向け、年中&年長合同で「劇あそび」に取り組んでいます。その中で、自分の役回りを理解し、なりきり、演じようとしているので乞う、ご期待下さい。他には、年長クラスは今年度から就学準備として取り組んでいる「鍵盤ハーモニカ」による合奏に挑戦しています。こどもたちは、一音一音丁寧に弾き真剣そのもの。みんなは本番に向けて練習を積重ねていますので、当日はきっとステキな合奏会を披露できるのではないかと思います。これから季節が冬から春へと移りかわる中、寒さや花粉なども考慮して楽しく元気に過ごしていけるようにしますのでよろしくお願いします。



給食だより

～大豆は小粒でもパワーはすごい！～

今月3日は冬から春へと変わる節分。現代のように医療が進化していない昔は季節の変わり目は体調を崩し死に至ることも多かったと言われます。ですから、そんな邪気を追い被ろうと古来より行事が伝承されてきています。節分の豆(魔の目)になぞらえ、魔(鬼)の目を炒り撃退し、生のままと違い拾い忘れられた豆から芽(災難の目)が出ることもない、ということとされています。また、豆まきが定着したのは、五穀(米、麦、粟、キビ、豆)の中で小さな一粒の種子に聖なる力が宿り、やがて大きな植物へと成長するということからだそう。その大豆は別名、「畑の肉」と称されているように全体の約3割が良質の植物性たんぱく質から成り、人体に必要なアミノ酸をバランスよく含んでいます。その栄養効果には血中コレステロールを減少させ、肥満改善にも効果的。また、豊富なカルシウム、食物繊維、カリウムや葉酸など、人体に不可欠な栄養素も含まれています。他にも、食品加工食品として味噌や醤油、納豆、テンペなどの発酵食品としても人気で健康維持や増進に役立っています。この機会に小さな豆パワーを再認識し、元気の源を摂り入れて元気に過ごしていけるようにしましょう!